

## 高島藤樹会

(題字は、竹脇曼卿先生によるものです)

発行  
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224

滋賀県高島市安曇川町上小川1225-1

藤樹書院・良知館内

電話・FAX 0740(32)4156

## 良知の心を楽しく学べる

## 『藤樹紙芝居』の制作

教材委員 北川 暢子

●安曇川町では、早くから『藤樹先生』という本があり、小学生が、先生の生き方を学んでいた。

先生の子供時代から、大洲での青年時代の活躍。その大洲藩を脱藩し、故郷で一人暮らしの母を養うため、酒を売りながら、自分の研究を深める一方で、藩主、村人を問わず、教育に打ち込む姿が、書かれています。「副読本を生かして、小学生にも分かりやすい授業をしよう。」と考えると、その準備に多くの時間を要した。児童に考えさせるため、大切な場面画や登場人物の表情等を一枚一枚、描いて授業をした。

●二〇〇八年に藤樹先生の生誕四〇〇年祭を迎えるため、近隣の関わりある研究者や関係者が集まった。



「これを機に、近江聖人『中江藤樹先生』の教えである『良知の心』を広く学ぶ機会にしたい」

と、当時の福井町長様を中心に、熱く語り合ったことを覚えている。私は、教師の立場から、「誰もが解りやすく学べる紙芝居を作ってはどうかでしょうか。」と提案し、皆さんの賛意をいただいた。

こうして、四〇〇年祭の年に『子どものころの藤樹さん』と『車が田におちた』の二話を、藤樹先生生誕四〇〇年祭実行委員会で作成。滋賀県内の全保幼小中学校に、四〇〇年祭の記念事業の一つとして配布することができた。

●「紙芝居だと、年齢を問わず、藤樹さんのことがよく解り、楽しく学べる」との評価をいただいた。四〇〇年祭後は、安曇川町の地域助成金と「高島藤樹会」予算を戴きながら、計十八巻の発行を継続できた。委員一人ひとりの持ち味が生かされて、先生の当時の生計の様子・使われた道具・村人達との関わりや学問の進め方等が、詳しく調べられ、より実感の伝わる表現ができたのである。

●今は、子ども会や老人会等からお呼びがあると、喜んで出向いている。今後、多くの場で活用を図っていきたく考えているので、気軽に声をかけていただくよう、紙面を借りてお願いしたい。

《連絡先》藤樹書院（良知館）  
電話 〇七四〇（三三）四一五六

## ひじりの声

上田藤市郎

春の訪れと共に藤樹書院へ来られる方の数も増えてきている。お客さんに藤樹先生について説明しながら感じることもある。藤樹先生の教えを学ぶ上で大切なことは書院に掲げられている「藤樹規」に書かれているように、朱子学や陽明学、藤樹先生の著作、藤樹先生の生涯について読み、知識のある人になることではない。最も身近な自分自身の言葉遣いや行動を良心にそって実行することである。藤樹書院への来客にわかりやすく熱意をこめて親切に対応することである。今の自分の言動を最善にする。これが「至善に止まる」なのであろう。

しかも最も身近なところでの実行から始める。それは家族である。親子、夫婦、兄弟姉妹の間で誠実でなくて、どこに正しい生き方があるだろうか。最近の政治家等の金銭疑惑、不倫騒動、失言など軽薄な言動に驚く。本来、「政」とは正しくおすという意味なのである。出馬の志が疑われる。家族への愛を隣人へ広げることが大事である。メディアに取り上げられるために行動しない。天災の多い日本、誠意の義援の志を実行したい。